うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail：lets@some.jp

令和4年11月

安倍山城跡

「安倍山城跡」をご存じでしょうか、桜井駅から南へ徒歩10分ほどの桜井公園として整備されている高台にあります。足利尊氏(室町幕府初代征夷大将軍)に仕えた北朝方の細川顕氏（ほそかわ　あきうじ）が、南北朝時代の暦応4年(1341年)に南朝方の西阿（さいあ）が陣を構える戒重城を攻めるために築いた山城で所々に土塁跡が残存しています。

山頂からは桜井の市街が一望できはるかに箸墓古墳も見え、確かに戒重城の動きを監視するには打ってつけの高台である。しかし、現在は遺構も無く写真のような建造物があるだけで、桜井市教育委員会の案内板によってようやく、この地が城址だったとわかる。

城址の南側には本紙93号で紹介した芸能発祥地の土舞台があり、11月5日の顕彰大祭50周年を迎えるにあたり、大規模な樹木伐採が行われ顕氏が眺めていた眺望が蘇りました、一度、古戦が行われた地を登城され大和の歴史の一遍を感じられては如何でしょうか。そして、この機会に遺構等の整備がされる事を切望しています。

（うるわしの桜井をつくる会　ひがし俊克）

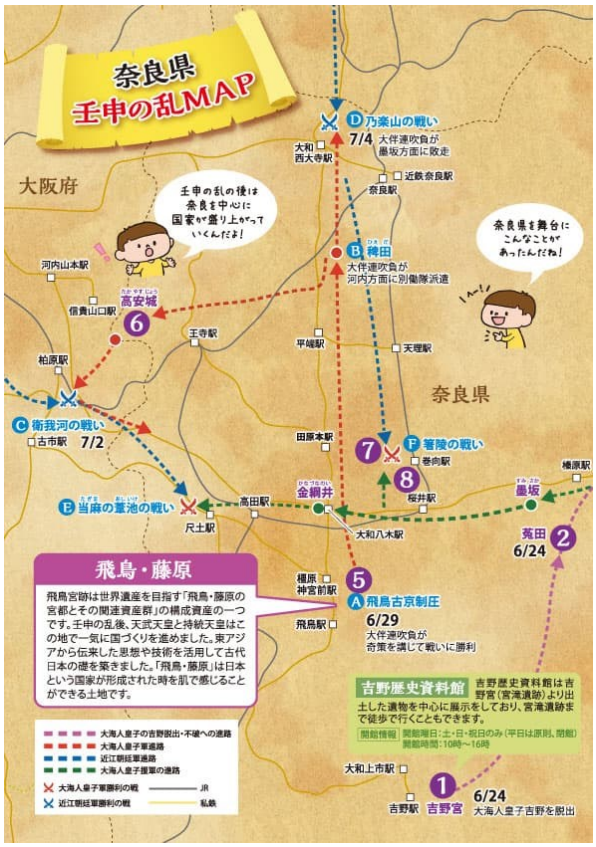
壬申の乱での箸陵(はしはか)の戦い

桜井市観光ボランティアガイドの会副会長　西林和文

壬申の乱は『日本書紀』巻28に詳しく記述されています。壬申の乱は天皇の後継争いとして古代の最大の内乱で、今年は1350年の節目を迎えます。戦いは近畿や東海の各地でおこなわれましたが、桜井の箸墓周辺で大規模な戦闘が行われたことが知られています。地元の箸陵の戦いを『日本書紀』の時系列で紹介すると、次のようになります。

672年7月2日に大海人皇子(おおあまのおうじ 後の天武天皇)が、近江朝廷軍への攻撃命令を下しました。これに先立ち、大和の地では6月29日に大伴吹負(おおとものふけい)が飛鳥古京を制圧すべく軍を起こしていました。この時、三輪君高市麻呂（みわのたけちまろ)や鴨蝦夷（かものえみし)などの地元豪族が吹負の軍に加勢したと記述されています。

吹負の飛鳥古宮制圧後は、奪回を目指す近江朝廷軍と「大和決戦」なる激戦が行われます。すなわち、乃楽山(ならやま)の戦い、当麻衢（たいまのちまた）の戦い、中ツ道の戦い、箸陵(はしはか)の戦いのことです。乃楽山の戦いで敗北した大海人軍の吹負は置始菟（おきそめのうさぎ）の救援軍到着により態勢を立て直し、当麻衢の葦池(あしいけ)のほとりで近江朝廷河内方面軍に勝利しました。その後は大和救援軍本隊が続々と到着し、吹負は増強された兵を下ツ道・中ツ道・上ツ道に分け来たるべき近江朝廷軍の攻撃に備え配備しました。



7月7日か8日頃、上ツ道に配備された置始菟と三輪君高市麻呂は強力な東国兵と共に、箸陵周辺で近江朝廷軍に勝利し、その勢いに乗じ中ツ道の戦いで、盧井鯨（いおいのくじら）に苦戦している大伴吹負を救援するため鯨の背後に廻り退路を衝くと、鯨の軍は崩れ始め村屋の陣営に向かって逃亡しました。

これ以降再び近江朝廷軍の大和への侵攻はなくなり、飛鳥古京制圧で始まった大和決戦は箸陵の戦いで幕を閉じたのでした。

壬申の乱に関わる奈良県内のゆかりの地をめぐる各種取組が進められています。スタンプラリーも10月～12月4日まで実施されています。詳しくは、県の記紀万葉のホームページや桜井市の観光案内所にパンフレットが配置されています。

「観光基本計画学習会」～ふるさとへの自信と誇りがキーポイント～

10月23日午後、エルト桜井で本会主催の桜井市の観光振興に向けた学習会を開催し、本年度より5ヶ年で始まった桜井市の観光振興の「基本計画」について、桜井市観光まちづくり課 岡本課長より概要の説明を受けて、参加者による意見交換をおこないました。

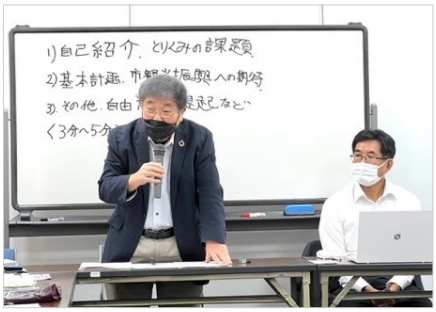
当日は、「基本計画」策定検討委員会の座長をされた 一柳 茂氏（ 古代ヤマトの郷づくり塾）、観光ボランテイアガイドの会、NPO泊瀬門前町再興フォーラム、商工会観光部会長、大神神社・等彌神社・大和信用金庫等々のみなさん、そして本会の役員・理事を含め17名の参加者でした。

参加者からの意見や提起は、「計画」として出来上がったとしても、それをどのように具体化していくのか、特に市民の参加や地域の歴史や文化に対する認識を高めていくことの必要性を強調する発言が多く出されました。例えば、観光関連イベント事業への参加者をみても、市外からの参加者が多数を占め、市民参加が限られていること。

また、観光関連諸団体の取組みを、ネットワークしていくことの大切さが提起されチームプレーになっていないで、個人プレイヤーのような現状ではないか。子どもの歴史学習会をおこなっているが、五條市では子どもが街（五條新町）のガイドをおこなっている。子ども達にも様々な場を提供できるように、関係機関が連携してオール桜井として取組みが出来るような方策を進めることが必要と提起されました。

宿泊施設に関わって、市内にはホテルや旅館・そしてゲストハウスや民泊など30ヵ所ほどあるが、初瀬地域では、10数軒あった旅館が3軒に減っており、コロナの影響で観光客がまだ戻っておらない状況で、駅前のルートインホテルの再開も必要である。（現在はコロナ専用の宿泊施設となっている）。桜井市高家に新しくオープンした「さくらいの郷」セミナーハウスの活用なども必要である。観光の新しい目玉づくりとして、食に関わっては『三輪にゅうめん』をキャンペーンしていくことになっている。等々の現状に関わっての提起がなされました。

それと共に、観光振興も競争原理にさらされるのではなく、地域の素晴らしさに自信を持つこと、生活から出発するまちづくり、文化を中心としたまちづくりによって、魅力的で訪問したい場所として現在の桜井を創り出すことの大切さを提起する意見もありました。



最後に、本会の堀井理事長よりの熱意にあふれた活動状況や現場ならではの意見を頂いたことに感謝が述べられました。また総括としては、① 市民は、桜井が日本国の発祥の地であることへの自信と誇りを持たねばならない。残念だが、市民自身が桜井の歴史を知らなすぎる。関係者の取組みも十分に知られていない現状である。自信と誇りがあれば、それにふさわしい魅力を磨こうという気持ちも生まれる筈だ。

②「計画」が絵に描いた餅にならないように、魂を入れる具体化を求める意見が多く出されたが、そのためにも本日集まって頂いた関係者による横のつながり、取組みをネットなどを活用して積み上げ，輪を広げて【魅力を磨く】ための情報交換を進める場づくりが是非とも必要である。

その為の窓口、ファシリテーション機能も求められているが、観光まちづくり課は、そのために観光課からまちづくり課へとなった筈で、一層の体制の充実が必要となっている。財政的に厳しい中で、知恵と汗を出すことで、それぞれの活動に「横ぐしを通す」取組みを積極的に進めていきたいと述べられました。　（編集子 楠）

うるわしの桜井をつくる会 特別顧問・顧問紹介

この度、以下の特別顧問・顧問が選任されました。（敬称略）

ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

特別顧問		
卜部 能尚	鈴木 寛治	郡山 尚

顧問	
浅川 肇	井上 孝良

【編集後記】

行楽の秋を迎え、市内の各地を訪れる時に、今号の桜井をディープに知る記事を参考にして頂きたい。地域の歴史や文化を見つめ直し、景観を大切にするまちづくりが求められる。

行政はもとより、市民参加で桜井でしかないもの、桜井であればこその「宝」を発見・創造していくために。その為の場づくりが引き続き必要である。　（編集子　K）

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL：090-3652-8104